



竹森 莞爾社長

電子部品外装めっき液のトップシェア企業

石原薬品株式会社

◆社是・特徴 〈経営方針〉自己・商品・市場の「三つの開発」が経営理念。絶え間ない「自己開発」、独自の「商品開発」、広く深い「市場開発」により社会への貢献を目指す。界面化学の技術を中核に「表面の機能を創造する」というコンセプトをベースに、新たな付加価値の創造に努め、環境に有益で高い品質の商品を提供し、社会に貢献する所存です。

IC、チップ部品、コネクタなど電子部品用外装めっき液の国内最大手。1900年の創業で、個人経営の医薬品や工業薬品の卸小売業が始まり。46年に石原薬品に商号を変更。現在は電子関連分野、自動車用品分野、工業薬品分野の3分野で金属表面処理剤、電子材料及び機器、自動車用化学製品、工業製品の4つの事業をバランス良く展開する。それぞれの事業ごとにトップを目指す複合企業体として創造性あふれる活動を展開する。

◆時代のニーズに対応する製品群

4つの事業を推進する同社だが、とりわけ業績をけん引するのが金属表面処理剤部門。電子部品用外装めっき液では国内で7割のシェアを持つ。特に、同社の人体に有害な鉛を使用しない鉛フリーめっき液に対する評価は高く、なかでもスズーピスマスめっき液などは性質の良さからICやチップ部品等の電子部品向けに販売を伸ばす。

また、液晶駆動回路実装関連のTAB（テープ・オートメイトド・ボンディング）やCOF（チップ・オン・フィルム）用無電解スズめつき液も液晶ディスプレイ市場の拡大を受けて、今後とも大きな成長が見込まれる。時代のニーズにマッチした製品を次々に開発し、業績の拡大を進めている。

◆研究開発に強み

同社の新製品開発力には定評がある。ニッチ市場と言われる各事業分野で時代のニーズに沿った製品を開発し、高い市場占有率を維持している。毎年メーカー部門売上高の10%を研究開発費に投入し、研究開発に社員の3分の1が当たるなど研究開発型企業として足場を固める。「各事業分野でいかに新しい技術や新製品を市場に出していけるかが大切だ」（竹森莞爾社長）と方針を語る。

そこで、06年7月には神戸市の本社敷地内に新研究棟を完成。新しいニーズの創造や発展に益々力を注いでいる。新製品比率を高めて利益率の向上を進める考えだ。

また、自社開発製品の比率を増やすため既存のコア技術を磨くだけでなく、外部から優秀な研究者を受け入れて、事業領域の拡大も進めている。中期経営戦略のなかでは、電子材料関連分野を重点開発分野と位置付けて第5の事業の育成を図っている。

◆世界シェアを伸ばす

ここ数年で製造現場の海外進出もかなり進んだ。そのため、05年4月には中国の上海に拠点を開設。中国や東南アジアに進出している日系企業に加え、現地企業や欧米からの進出企業へも販路を拡大している。もちろん、販売だけでなく、アフターサービスも含め徹底した営業戦略を国内と同様に海外でも展開する。



新たに完成した研究棟

今後は、タイなどの東南アジアにも拠点を作る計画で、世界シェアの拡大を狙う。

一般に同社が攻める市場はニッチと言われるが、事業ごとの柱をしっかりとさせ、景気動向に左右されない全天候型経営で事業基盤の安定化および強化を図る。そして、それぞれの事業分野が培った高い技術力を活かし、着々と新たなステージへ駒を進めていく。

◆会社プロフィール

[代表者] 竹森 莞爾

[創業] 1900年4月

[本社] 神戸市兵庫区西柳原町5-26

[電話] 078・681・4801

[URL] <http://www.unicon.co.jp/>

[資本金] 14億4,700万円

[従業員] 187人

[売上高] 147億円(2007年3月期見込み)

[主な事業] 金属表面処理剤、電子材料及び機器、自動車用化学製品、工業薬品